

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和三年九月一日発行 第九十号

檀信徒の皆さま、こんにちは。八月の豪雨で被災された方々にお見舞い申し上げます。二十五年以上お盆参りに行かせて頂いておりますが、お盆中の三日共に雨だった事はなかった様に記憶しています。その分、例年よりも涼しい棚経となりました。

さてコロナ禍に賛否は有りながらもオリンピックが開催されました。その事には触れませんが、一つ私なりに残念に思ったことがあります。それは七十六年前、広島に原爆が投下された八月六日の平和記念式の日にはオリンピック会場で、私の知る限り何も行われなかったことです。炎天下を避ける為、この日も早朝から競歩などが行われていましたし、競技を中断するのが難しいのも分かります。また「スポーツに政治を持ち込むな」との意見があるのも分かります。しかし原爆投下から七十六年たった今、核軍縮が世界中で叫ばれている中、原爆で亡くなった方々に黙とうを捧げるのは政治問題となるでしょうか？なぜ私たちはオリンピックやパラリンピックに魅せられるのか。それは尊い命を懸命に燃やし輝いているからではないでしょうか？原爆を落とされ、無差別に多くの命が奪われた日。同じことが二度と行われぬ様に願う「平和と、いのちを考える日」であるならば世界で

唯一被爆した日本開催のオリンピックだからこそ、その様な時間を作っても良かったのではないかと思いました。

話は変わりますが以前の講習会でも紹介をした六方拝を實踐されているお檀家様からメールを頂きましたので、ご了承を得て紹介させて頂きます。(以下、本文抜粋)

〓本日ご住職様にお会いした事をきっかけに、自分のこの二年を振り返ってみました。

二年前海外から帰国した時は様々な葛藤にまみれており、その心をどの様に扱うべきかわからず、苦しんでおりましたが、ご住職様にご相談させていただいた事や、六方拝を教えていただいた事で少しずつ時間をかけて、その状態から変わってくる事ができました。本日も少しお伝えいたしました。以前葛藤の最中にいた時は「自分には感謝が足りない！もっと感謝しなければ!!」と力んで思っていたのですが、「こんなに苦しい気持ちの中で、何にどうやって感謝したらいいのか!!」と思っている自分も心のどこかに在りました。そんな時ご住職様は、幸せとか喜びって探さなくても、無理に気づかなくても良いのかわかって思っています。気がついたら、「感じていた。」「浸っていた。」それで良いのかな。というお言葉を下さったのですが、あの当時、この言葉の意味が頭では分かっても、心では分かりませんでした。しかし、おかげ

様で今ではこの言葉の意味がわかる様な気がします。(中略)

六方拝を通して、自分は様々な物・人・縁、場合によっては犠牲の上に存在している事を体感しました。また、それを感じる様になってからは、様々なものの有難さを感じる様になりました。生きている事、ここに存在している事は決して当たり前ではなく、奇跡的な事であり、かつ感謝に耐えない事なのだと思います。(後略)

三十代のとても真面目な女性です。ご家族の支えやご理解のもと、今ではとても元気になれました。六方拝は私も毎朝実践しています。副作用もなく、悩んでいる心や人間関係を少しずつ改善してくれます。沈滞したコロナ禍では心の洗浄作用もあるように感じています。何か悩み事や六方拝に興味ある方はメールなどお問合せ下さい。お彼岸には納骨堂の合同供養も行います。

日時 九月二十三日(木曜日) 十三時より

場所 金剛宝戒寺 本堂に置いて

講習会のご案内です。コロナの感染者が増えてきています。場合によっては中止も考えられますので遠方からの方はお問い合わせください。

日時 十月八日(金曜日) 十四時より

演題 「良書に学ぶ」

皆さまのご健康を祈念いたします。 合掌